

## 審査情報提供事例について

審査支払機関における診療（調剤）報酬に関する審査は、国民健康保険法及び各法、療担規則及び薬担規則並びに療担基準、診療（調剤）報酬点数表並びに関係諸通知等を踏まえ各審査委員会の医学的見解に基づいて行われています。

他方、高度多様化する診療内容についての的確、かつ、迅速な審査を求められており、各審査委員会から自らの審査の参考とするため、他の審査委員会の審査状況について知りたいとの要望のある事例について、平成17年度より全国調査を実施し、各審査委員会及び国保連合会間で情報の共有をまいりました。

今般、審査の公平・公正性に対する関係方面からの信頼を確保するため、審査上の一般的な取扱いについて、「審査情報提供事例」として広く関係者に情報提供することといたしました。

今後、全国国保診療報酬審査委員会会長連絡協議会等で協議を重ね提供事例を逐次拡充させることとしております。

なお、療担規則等に照らして、それぞれの診療行為の必要性、妥当性などに係る医学的判断に基づいた審査が行われることを前提としていますので、本提供事例に示されている方向性がすべての個別事例に係る審査において、画一的あるいは一律的に適用されるものでないことにご留意願います。

平成23年3月

## 220 コハク酸プレドニゾンナトリウム（眼科9）

<平成23年9月26日>

○ **標榜薬効（薬効コード）**

副腎ホルモン剤（245）

○ **成分名**

コハク酸プレドニゾンナトリウム【注射薬】

○ **主な製品名**

水溶性プレドニン

○ **承認されている効能・効果**

☆印の付されている投与法は以下のような条件でのみ使用できる。（その理由がなくなった場合は、速やかに他の投与法に切り替えること。）

- 1 静脈内注射及び点滴静脈内注射：経口投与不能時、緊急時及び筋肉内注射不適時
- 2 筋肉内注射：経口投与不能時

1 内科・小児科領域

(1) 内分泌疾患

1. 慢性副腎皮質機能不全（原発性、続発性、下垂体性、医原性）  
用法：筋肉内注射
2. 急性副腎皮質機能不全（副腎クライゼ）  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射
3. 副腎性器症候群、亜急性甲状腺炎、甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症、ACTH単独欠損症  
用法：筋肉内注射☆
4. 甲状腺中毒症〔甲状腺（中毒性）クライゼ〕  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆

(2) リウマチ疾患

1. 関節リウマチ、若年性関節リウマチ（スチル病を含む）  
用法：筋肉内注射、関節腔内注射
2. リウマチ熱（リウマチ性心炎を含む）  
用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射
3. リウマチ性多発筋痛  
用法：筋肉内注射

(3) 膠原病

1. エリテマトーデス（全身性及び慢性円板状）、全身性血管炎（大動脈炎

症候群、結節性動脈周囲炎、多発性動脈炎、ヴェゲナ肉芽腫症を含む）、多発性筋炎（皮膚筋炎）

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射

2. 強皮症

用法：筋肉内注射☆

(4) 腎疾患

ネフローゼ及びネフローゼ症候群

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆

(5) 心疾患

うっ血性心不全

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆

(6) アレルギー性疾患

1. 気管支喘息（ただし、筋肉内注射は他の投与方法では不適當な場合に限る）

用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射、ネブライザー

2. 喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎を含む）

用法：筋肉内注射☆、ネブライザー

3. 喘息発作重積状態、アナフィラキシーショック

用法：静脈内注射、点滴静脈内注射

4. 薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹、中毒疹を含む）

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆

5. 血清病

用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆

(7) 重症感染症

重症感染症（化学療法と併用する）

用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆

(8) 血液疾患

1. 溶血性貧血（免疫性又は免疫性機序の疑われるもの）、白血病（急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化、慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病を含む）、顆粒球減少症（本態性、続発性）、紫斑病（血小板減少性及び血小板非減少性）、再生不良性貧血、凝固因子の障害による出血性素因

用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆

2. 白血病（急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化、慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病を含む）のうち髄膜白血病

用法：脊髄腔内注入

(9) 消化器疾患

限局性腸炎、潰瘍性大腸炎

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、注腸

(10) 重症消耗性疾患

重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期、スプルーを含む）

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆

(11) 肝疾患

1. 劇症肝炎（臨床的に重症とみなされるものを含む）  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆
2. 胆汁うっ滞型急性肝炎  
用法：点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆
3. 肝硬変（活動型、難治性腹水を伴うもの、胆汁うっ滞を伴うもの）  
用法：筋肉内注射☆
- (12) 肺疾患  
びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎を含む）  
用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、ネブライザー
- (13) 結核性疾患（抗結核剤と併用する）
  1. 結核性髄膜炎  
用法：脊髄腔内注入
  2. 結核性胸膜炎  
用法：胸腔内注入
- (14) 神経疾患
  1. 脳脊髄炎（脳炎、脊髄炎を含む）（ただし、一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ、かつ他剤で効果が不十分なときに短期間用いること）、重症筋無力症  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆、脊髄腔内注入
  2. 多発性硬化症（視束脊髄炎を含む）  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射、脊髄腔内注入
  3. 末梢神経炎（ギランバレー症候群を含む）  
用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、脊髄腔内注入
  4. 小舞蹈病、顔面神経麻痺、脊髄蜘蛛膜炎  
用法：筋肉内注射☆
- (15) 悪性腫瘍
  1. 悪性リンパ腫（リンパ肉腫症、細網肉腫症、ホジキン病、皮膚細網症、菌状息肉症）及び類似疾患（近縁疾患）  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆、脊髄腔内注入
  2. 好酸性肉芽腫  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆
  3. 乳癌の再発転移  
用法：筋肉内注射☆
- (16) その他の内科的疾患
  1. 特発性低血糖症  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射☆
  2. 原因不明の発熱  
用法：筋肉内注射☆
- 2 外科領域
  1. 副腎摘除  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射

2. 臓器・組織移植、副腎皮質機能不全患者に対する外科的侵襲、蛇毒・昆虫毒（重症の虫さされを含む）  
用法：筋肉内注射☆
3. 侵襲後肺水腫  
用法：静脈内注射、ネブライザー
4. 外科的ショック及び外科的ショック様状態、脳浮腫、輸血による副作用、気管支痙攣（術中）  
用法：静脈内注射
- 3 整形外科領域
  1. 強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）  
用法：筋肉内注射
  2. 強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎、変形性関節症（炎症症状がはっきり認められる場合）、非感染性慢性関節炎、痛風性関節炎  
用法：関節腔内注射
  3. 関節周囲炎（非感染性のものに限る）、腱周囲炎（非感染性のものに限る）  
用法：軟組織内注射、腱鞘内注射、滑液嚢内注入
  4. 腱炎（非感染性のものに限る）  
用法：軟組織内注射、腱鞘内注射
  5. 腱鞘炎（非感染性のものに限る）  
用法：腱鞘内注射
  6. 滑液包炎（非感染性のものに限る）  
用法：滑液嚢内注入
  7. 脊髄浮腫  
用法：静脈内注射
- 4 産婦人科領域
  1. 卵管閉塞症（不妊症）に対する通水療法  
用法：卵管腔内注入
  2. 卵管整形術後の癒着防止  
用法：筋肉内注射☆、卵管腔内注入
  3. 副腎皮質機能障害による排卵障害  
用法：筋肉内注射☆
- 5 泌尿器科領域
  1. 前立腺癌（他の療法が無効な場合）  
用法：筋肉内注射☆
  2. 陰茎硬結  
用法：筋肉内注射☆、局所皮内注射
- 6 皮膚科領域

△印の付されている効能・効果に対しては、外用剤を用いても効果が不十分な場合あるいは十分な効果を期待し得ないと推定される場合にのみ用いること。

  1. △湿疹・皮膚炎群（急性湿疹、亜急性湿疹、慢性湿疹、接触皮膚炎、貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎、アトピー皮膚炎、乳・幼・小児湿疹、ビダー

## 【国保】

ル苔癬、その他の神経皮膚炎、脂漏性皮膚炎、進行性指掌角皮症、その他の手指の皮膚炎、陰部あるいは肛門湿疹、耳介及び外耳道の湿疹・皮膚炎、鼻前庭及び鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（ただし、重症例以外は極力投与しないこと。局注は浸潤、苔癬化の著しい場合のみとする。）△痒疹群（小児ストロフルス、蕁麻疹様苔癬、固定蕁麻疹を含む）（ただし、重症例に限る。また、固定蕁麻疹は局注が望ましい。）

用法：筋肉内注射☆、局所皮内注射

2. 蕁麻疹（慢性例を除く）（重症例に限る）、△乾癬及び類症（関節症性乾癬、乾癬性紅皮症、膿疱性乾癬、稽留性肢端皮膚炎、疱疹状膿痂疹、ライター症候群）、皮膚粘膜眼症候群〔開口部びらん性外皮症、スチブンス・ジョンソン病、皮膚口内炎、フックス症候群、ベーチェット病（眼症状のない場合）、リップシュッツ急性陰門潰瘍〕、天疱瘡群（尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、Senear-Usher 症候群、増殖性天疱瘡）、デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡、妊娠性疱疹を含む）、△紅皮症（ヘブラ紅色枇糠疹を含む）

用法：点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆

3. △尋常性乾癬（重症例）

用法：点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、局所皮内注射

4. △毛孔性紅色枇糠疹（重症例に限る）、成年性浮腫性硬化症、紅斑症（△多形滲出性紅斑、結節性紅斑）（ただし、多形滲出性紅斑の場合は重症例に限る）、レイノー病、帯状疱疹（重症例に限る）、潰瘍性慢性膿皮症、新生児スクレレーマ

用法：筋肉内注射☆

5. △円形脱毛症（悪性型に限る）、△早期ケロイド及びケロイド防止

用法：局所皮内注射

## 7 眼科領域

1. 内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎、網脈絡膜炎、網膜血管炎、視神経炎、眼窩炎性偽腫瘍、眼窩漏斗尖端部症候群、眼筋麻痺）

用法：静脈内注射☆、筋肉内注射☆、結膜下注射、球後注射、点眼

2. 外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適當又は不十分な場合（眼瞼炎、結膜炎、角膜炎、強膜炎、虹彩毛様体炎）

用法：静脈内注射☆、筋肉内注射☆、結膜下注射、球後注射

3. 眼科領域の術後炎症

用法：静脈内注射☆、筋肉内注射☆、結膜下注射、点眼

## 8 耳鼻咽喉科領域

1. 急性・慢性中耳炎

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、中耳腔内注入

2. 滲出性中耳炎・耳管狭窄症

用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、中耳腔内注入、耳管内注入

3. 急性感音性難聴、口腔外科領域手術後の後療法

- 用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射
4. 血管運動（神経）性鼻炎、アレルギー性鼻炎、花粉症（枯草熱）  
用法：筋肉内注射、ネブライザー、鼻腔内注入、鼻甲介内注射
  5. 副鼻腔炎・鼻茸  
用法：筋肉内注射、ネブライザー、鼻腔内注入、副鼻腔内注入、鼻茸内注射
  6. 進行性壊疽性鼻炎  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射、ネブライザー、鼻腔内注入、副鼻腔内注入、喉頭・気管注入
  7. 喉頭炎・喉頭浮腫  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射、ネブライザー、喉頭・気管注入
  8. 喉頭ポリープ・結節  
用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、ネブライザー、喉頭・気管注入
  9. 食道の炎症（腐蝕性食道炎、直達鏡使用後）及び食道拡張術後  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射、ネブライザー、食道注入
  10. 耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法  
用法：静脈内注射、点滴静脈内注射、筋肉内注射、軟組織内注射、局所皮内注射、ネブライザー、鼻腔内注入、副鼻腔内注入、鼻甲介内注射、喉頭・気管注入、中耳腔内注入、食道注入
  11. 難治性口内炎及び舌炎（局所療法で治癒しないもの）  
用法：軟組織内注射
  12. 嗅覚障害  
用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、ネブライザー、鼻腔内注入
  13. 急性・慢性（反復性）唾液腺炎  
用法：静脈内注射☆、点滴静脈内注射☆、筋肉内注射☆、唾液腺管内注入

○ **薬理作用**

抗炎症作用、抗アレルギー作用、免疫抑制作用、代謝作用

○ **使用例**

原則として、「コハク酸プレドニゾロンナトリウム【注射薬】」を「自己免疫性視神経炎」に対して処方した場合、当該使用事例を審査上認める。

○ **使用例において審査上認める根拠**

薬理作用が同様と推定される。